

## 令和2年度第1回伊勢市まち・ひと・しごと創生会議 議事要録

◆日時 令和2年10月27日(火) 19:00~20:45

◆会場 伊勢市役所本庁舎本館委員会室

◆出席委員

中村 龍平委員、河井 英利委員、福村 伝史委員、中村 基記委員、高木 俊宏委員、齋藤 平委員、廣島 朗委員、川上 貢司委員、北村 和也委員、秋山 純委員、松山 泰久委員、山下 智史委員、秋山 則子委員、山川 一子委員、安藤 大作委員

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局次長、情報戦略局参事兼情報政策課長、企画調整課長、同係長2名、同主事】

資産経営部【資産経営部参事兼資産経営課長】

環境生活部【市民交流課長、同副参事】

教育委員会【学校教育課長、教育研究所長】

健康福祉部【健康課長、保育課長、高齢者支援課長、障がい福祉課長】

産業観光部【商工労政課長、同課副参事、農林水産課長、同課副参事、観光振興課長、観光誘客課長】

都市整備部【都市計画課長、交通政策課長、住宅政策課長】

◆内容と結果

### 1 正副会長の選出

会長及び副会長の選出について、会長に齋藤 平委員、副会長に山川 一子委員とする事務局案に対して異義なしの声多数。会長に齋藤 平委員、副会長に山川 一子委員を選出

### 2 第2期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について

【事務局から説明】

①第2期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

②第2期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理表(案)について

【意見・質問等】

- ・就労支援について、就職に向けたセミナーはどのように広報をしていく考えか。  
⇒ターゲットを女性・障がい者・学生等に絞って行う。コロナウイルス感染症の影響で開催できていないが、状況を見ながら進めていきたい。
- ・人口減少対策について、子育て世代の転入を促す視点でいくと、医療・福祉の無料化も大事であるし、教育の充実を図り功を奏している他市の事例もあるため、注視していただきたい。
- ・社会増減対策において、「仕事があるから伊勢に残る」という方向性で議論されているが、「伊勢が好き」・「伊勢に残りたい」と思う若者も増えてきている。そういっ

たところから仕事生まれることもあるのでは。「仕事がないから伊勢に残らない」というのが本当のところどうなのか、感情面がどこにあるのか、アンケート調査を行うなどしては。

- ・若い世代の起業に対して後押しする施策が必要では。例えば、公募で起業する若者を募るなどしてファーストペンギンを作ることで後に続くものもいるのでは。
- ・不登校の児童生徒が学校以外での学習の記録を見せて話し合うことで出席扱いとし、正当に評価がされるような法整備もされているが、そういったことを知らない家庭も多い。しっかりと周知し、制度を活用できるようにしていただきたい。
- ・学力向上推進について、例えば校長先生が授業の見回りを行うことで学力が向上した例もあり、予算に表れない部分での取組も強化していただきたい。  
⇒予算に表れない部分でも取り組めることがあるのではないかとこの視点を持ち、進めていきたい。
- ・来年度から中学英語の指導要領が改訂される。新型コロナウイルス感染症の影響で小5.6年生の英語授業が充分出来ていない中、塾に通える子どもと通えない子どもの格差が広がるのでは。他市・他県の事例も参考に、民間活力を活かした教育クーポンの発行など新しい取組等検討されては。  
⇒参考とさせていただき、今年度の学習を修めていくことに注力していきたい。
- ・教育のオンライン化に対して経済格差が教育格差とならないような取組を行っていただきたい。インターネット環境の整備に対して福祉の観点から予算付けをお願いしたい。また、ICT支援員について、ただ操作の補助を行うだけでなく、児童生徒のモチベーションを向上させる働きかけが出来る人材を広く民間等からも募っていただきたい。  
⇒アンケートにより、児童・生徒全家庭の5%程度がWi-Fi環境が整っていないということが分かっている。モバイルWi-Fiルータ・端末の貸出も行い、公平性を確保していく。無料貸出については方法を検討中である。
- ・教育資金に係る贈与税に対する特例措置についての周知も行っていただきたい。
- ・部活動について、どの程度ガイドラインが順守されているのか。子どもたちの時間の確保、学びの自由を担保していただきたい。  
⇒ガイドラインの順守については、毎年度チェックを行っている。子どもたちの時間づくり、身体を守るという観点を持ち、指導していきたい。
- ・教育に関連するKPIの評価を見ても、顕著に成果が表れているわけではない。思い切った施策を行うなど方向転換をすることも必要では。
- ・少人数学級を進めていこうとすると教員不足が生まれる。そこで民間活力を活かして柔軟に対応していただきたい。
- ・前述の中1英語についてもそうであるが、成果の学習とそこに到達するための補助的な仕組みを取り入れていただきたい。

- ・外国人参拝者数がKPIとして設定されていることについてはどうか。ターゲットを外国人から内需へと切り替えては。
  - ⇒外国人観光客の誘客については止まっており、27%まで落ち込んでいる状況である。進め方についてはこれから検討してまいりたい。
- ・第2期総合戦略策定時から新型コロナウイルス感染症により社会情勢やライフスタイルが大きく変わっている中で、これから5年間の計画をどのように進めていくのか。
  - ⇒新型コロナウイルス感染症の状況を見定めながら、必要に応じて主な取組内容において対応を検討して参りたい。
- ・新型コロナウイルス感染症により、4つの基本目標については考え方が変わるものではないが、手法や具体的施策については影響を受けるのでは。進行していく中で都度見直していただきたい。ワーケーション等の新しい取組も反映されるのでは。
- ・シティプロモーションについては、改善レベルではなく改革レベルの外へ向けて打って出るアウトリーチ施策の強化が必要では。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により働き方が大きく変わる中で、例えば、DX化やSDGs等、何かに特化する対応が必要では。
- ・SDGsに関する宣言を行い、施策を紐づけていくことも有益では。
- ・伊勢市は周辺市町からの転入が多い傾向にあり、それがなくなった時にどのように伊勢市の人口を維持していくのか検討すべきでは。
- ・成人式のあり方も人口流出の鍵となるのでは。今後の開催はどのような形を考えているのか。
  - ⇒引き続き20歳を対象に開催予定である。
- ・定年後、市外・県外の子の元へ転出するケースも多い。流出を防ぐために、仕事としての農業だけでなく、ライフワークとしての農業を促す施策も有益では。
- ・新型コロナウイルス感染症の前後で大きく情勢が変わり、現在も刻一刻と状況が変わっている。総合戦略の大まかな考え方・方向性については変わるものではないが、具体的な部分については今本当に必要かどうかの検討や柔軟な対応をしていただきたい。
- ・リモートワーク×空家とかりモートワーク×IT技術職など、掛け合わせてみて、それを核として打って出してみることで、外に出た方が伊勢に戻ってくるきっかけとなるのでは。
- ・出生数は全国的に急速に減っており、出生数を増やすということには市単独で力を入れてもあまり効果を期待できない。市としての優先順位をつけるのであれば、流出を防ぎ、転入を促すことに注力していくべきでは。

以上